

2017年度
大槻能楽堂自主公演能
能の魅力を探る
シリーズ

能と

5月27日(土) 14時開演

お話し 中西 進

能
隅田川
野村四郎



6月24日(土) 14時開演

お話し 山折 哲雄

能
狂言
芦刈
土筆 茂山良暢
観世喜正



和歌

能と密接な関係にある和歌。能の詞章には和歌から構想を得ているものや曲中に引用されているものが多くあり、扱われる和歌も「万葉集」「古今和歌集」「和漢朗詠集」など多様に富んでおります。「和歌」という視点を通すことによつて、更に能の魅力を追求するだけでなく、新たな魅力にぜひ触れてみてください。

4月15日(土) 14時開演

お話し 馬場あき子

能
実方
大槻文藏

<初めてご覧になる方にもわかりやすい解説文(英文解説)もご用意しています>

無形文化遺産
NOH KYOGEN
能楽

大槻能楽堂

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7

チケット・お問い合わせは TEL.06-6761-8055 <http://www.noh-kyogen.com>

©主催:公益財団法人大槻能楽堂



能と和歌

第628回 4月15日(土) 14:00開演 13:00開場

お話 歌人実方の美への執心

馬場 あき子

休憩15分

能 実方 — 復曲 — さねかた

前シテ 老人 大槻 文藏
後シテ 藤原実方の霊
ワキ 西行法師 福王 茂十郎
アイ 里人 茂山 千三郎

笛 藤田六郎兵衛
小鼓 大倉源次郎
大鼓 山本 哲也
太鼓 前川 光長

後見 赤松 禎友
上野 雄三

地謡 片山九郎右衛門
上田 拓司
浦田 保親
片山 伸吾
武富 康之
齊藤 信輔
大槻 裕一
浦田 親良

美男で和歌の才に優れ、帝はもとより宮廷の人々に愛された藤原実方は、突然陸奥国に左遷され、都へ帰ることなく客死した。かの地を訪れた西行法師が、実方の眠る塚に和歌を手向けると、舞の名医でもあった実方が、賀茂の臨時祭の折の舞装束で現れて、水鏡に映る自分の美しい姿に見惚れて舞う。しかし、よく見れば、それは老残の姿であった――。

観世流では1993年、能本作成／西野春雄、節仕型附・シテ／観世榮夫で「能劇の座」が復曲初演。初演から携わってきた大槻文藏（人間国宝）が、老残の姿に重なる華やいだ若い姿、その衰れをどのように表現するかに注目したい。

第629回 5月27日(土) 14:00開演 13:00開場

お話 隅田川辺の白い鳥を見て、
狂女と船頭とが繰り広げる伊勢物語の世界

中西 進

休憩15分

能 隅田川 すみだがわ

シテ 梅若丸の母（狂女） 野村 四郎
子方 梅若丸の亡霊 浅見 悠花
ワキ 渡守 殿田 謙吉
ワキツレ 旅人 御厨 誠吾

笛 光田 洋一
小鼓 横山 晴明
大鼓 山本 哲也

後見 上野 朝義
赤松 禎友

地謡 大槻 文藏
多久 島利之
齊藤 信隆
上野 雄三
山本 正人
武富 康之
大槻 裕一
水田 雄悟

東国武蔵野の大地を流れる隅田川。渡れば向こうは下総国だ。さらわれた子を探して都から来たという狂女が、渡し舟に乗る。対岸には人々が群集しているのが見える。それは一年前の今日、人買い商人が置き去りにした少年が亡くなったのを供養する大念仏だという。そんな哀れな話を船頭が語るうちに、舟は岸に着くが、狂女だけが上がりとうしない。見れば、さめざめと泣いているではないか――。

共に昨年、人間国宝に認定された野村四郎（シテ）と大槻文藏（地頭）という、今、最高の顔合わせが紡ぎ出す《隅田川》の情景、その物語の世界を存分に味わい尽くしたい。

第630回 6月24日(土) 14:00開演 13:00開場

お話 春うららかな難波潟。
離別した夫婦が再び結ばれる和歌の縁

山折 哲雄

能 土筆 つくづくし

シテ 何某 茂山 良暢
アド 何某 善竹 忠亮
後見 新島 健人

知人を誘って春の野へ遊びに出た男。一面の土筆の中に丈の伸びたのを見つけ、「土筆の首しを（お）れてぐんなり」という妙な歌を詠んで呆れられる。古歌を引いて説明するが、誤りを指摘されて、ますます笑われる。場所を変えて、知人が芍薬の花を見て古歌を口ずさむが、今度は男が誤りをからかって、とうとう相撲を取り始める――。

これからの狂言界を担う関西在住の気鋭たちの中から、今回は、茂山良暢と善竹忠亮という楽しみな顔合わせ。

休憩15分

能 芦刈 あしかり

シテ 日下左衛門 観世 喜正
ツレ 左衛門の妻 永島 充
ワキ 従者 福王 和幸
ワキツレ 供人 広谷 和夫
ワキツレ 供人 喜多 雅人
アイ 難波の里人 善竹 忠亮

笛 杉 信太郎
小鼓 曾和 鼓堂
大鼓 守家 由訓

後見 大槻 文藏
赤松 禎友

地謡 浅井 文義
齊藤 信隆
上野 雄三
山本 博通
山本 正人
武富 康之
齊藤 信輔
大槻 裕一

難波津を見晴らす日下の里に、都で出世して貴人の乳母となった女が帰ってくるが、住んでいた家を訪ねても夫の姿はなかった。夫とは零落したために心ならずも別れたのだった。女は、しばらく逗留して探すことにした。そんなある日、気晴らしにと芦売りの芸を見る。芦売りの男は、土地の由来を語り、笠を手軽やかに舞うのだった。そして、女が芦を持って来させたところで、互に夫婦だと気づく――。

活躍目覚ましい観世喜正をシテに、また地頭には、大阪出身で鏡仙会の浅井文義を迎える。芸尽くしの面白さと、昔むかしの難波津が目に浮かぶような風情を楽しみたい。

文・石淵文恵

入場料金のご案内 ※入場券は各公演の2ヶ月前の同日付から発売

自由席 ●前売：一般 5,400 円・学生 2,700 円
座席指定可 ●当日：一般 5,900 円・学生 3,100 円

ワンコインでマイシート 500円
追加料金で自由席を座席指定にアップグレード

U-25 25歳以下 (U-25) 当日立見券 800円

※自由席券・当日券でご入場の場合は、立見見でののご案内となる場合もございます。ご了承ください。※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。

入場券発売所

大槻能楽堂事務局・大槻能楽堂ホームページ

ローソンチケット

TEL 0570-084-005

URL l-tike.com

Lコード: 56490

交通 ○地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、⑩号出口を出て南へ約300m。(⑪号出口にエレベーター有り)
又は谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車、⑦号出口を出て北へ約350m。(⑦号出口にエレベーター有り)
○市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※大阪駅から62号系統「住吉車庫前」行乗車。 ※「あべの橋」(天王寺)から62号系統「大阪駅前」行乗車。

※本公演における写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録音は、著作権・肖像権に触れますのでご遠慮いただきますようお願いいたします。
Unauthorized recording or photography of the performances is prohibited and a violation of copyright. (Thank you for understanding and we hope you will have a good time.)

